

	試算の前提	1機1回あたりの活動				1機1時間あたりの活動		同時運航機体数
		散水量	散水時速度	散水時高度	散水密度の比較 (※2)	散水回数 (取水地からの往復所要時間)	散水量	
 <p>消防防災ヘリ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 散水時間及び散水量は実績を反映(※1) 散水箇所は可能な限り実績を反映するほか、延焼速度が速い箇所や実焼損範囲外枠に近い箇所にも散水するものと想定 	500ℓ	20knot	30m	1	11回 (渡良瀬川から往復所要時間5分)	5,500ℓ	4機
 <p>飛行艇</p>	<ul style="list-style-type: none"> 消防防災ヘリの空白時間に前提条件(飛行高度、給水場所)を勘案して、最大限の散水量を確保した上で延焼区域に散水できるように散水箇所・運航頻度を設定(※1) 延焼速度が速い箇所や実焼損範囲外枠に近い箇所にも散水するものと想定 	12,700ℓ	48.6knot	150m	0.4	2回 (霞ヶ浦から往復所要時間42分)	25,400ℓ	1機
			48.6knot	300m	0.1			
			新明和工業試算値					

(※1) 参考資料2 消防防災ヘリ、自衛隊ヘリ及び飛行艇ごとの散水時間・散水量等 参照

(※2) 参考資料3 消防防災ヘリ、自衛隊ヘリ及び飛行艇による散水密度の比較 参照

飛行艇を活用する前提条件

- 機体数の設定（実働1機と設定）
- 取水地の設定（足利市で消火活動を行う場合、最短距離にある取水可能な水面を確保できる霞ヶ浦に設定）
- 飛行高度の設定（海上自衛隊が基本とする運航要領【回転翼150m、固定翼300m】を参考に設定）